

## 週報

## こひつじ

第39巻 43号  
 大津キリスト教会  
 菊池郡大津町室 119  
 TEL 096-293-4470  
 FAX 096-293-4961  
 牧師 米村 英二

## イエスにとどまる

わたしはぶどうの木で、あなたがたは枝です。人がわたしにとどまり、わたしもその人の中にとどまっているなら、そういう人は多くの実を結びます。わたしを離れては、あなたがたは何もすることができないからです。  
 (ヨハネ 一五の五)

## その一 苦難によって造られた養分

私たちとイエスとの関係がどのようなのかを、イエスは最も適切なたとえをもって説明された。イエスにつながっていること、イエスはぶどうの木であって、私たちがその枝であるという。

このたとえからわかる第一のことは、「私にとどまっていなさい。わたしは、イエスと私たちは、生命的・有機的結合体であるということだ。できないからである」

血液が心臓から送り出されて全身に及ぶように、ぶどうの木であるイエスの生命が樹液となって枝である私たちに送られる。

それがイエスと私たちとの関係である。力がなければ、ひたすらぶどうの木であるイエスにつながるよりほかはない。

そしてそこから養分を吸収する。そうすれば、やがて実を結ぶのである。

それはちょうど胎児が、生きるために必要なすべての養分を母親から吸収するのと同じである。

だから母親は食べ物に気をつける。農薬の入ったものは避ける。

なぜなら、自分の食べるものが、そのまま養分となって胎児に吸い取られてゆくからである。

こう考えると、イエスと生命的・有機的結合体である私たちは何とすばらしい栄養と滋養に満ちた生命をイエスから受け取っていることかと思ふ。

地上の人生でイエスが体験されたすべてが栄養豊かな樹液となつて私たちに送られ、それが私たちに養うのである。

「彼は、・私たちの答のために砕かれた。彼への懲らしめが私たちに平安をもたらし、彼の打傷によって、私たちはいやされた」と聖書にあるのは、そのことを言っているのだと思う。

自分をほんとうに生かすような学びを人から受ける場合も、同じ

原理が働く。

そのとき私たちは、単なる知識や情報をその人から得ているのではない。その人自身の過去の体験、喜びや悲しみ、苦しみ、そうしたものによってその人自身のうちに蓄えられた滋養、養分、エキスを受け取るのである。

妻はジャック・ロツカーという宣教師に導かれて信仰をもったのだが、

「ジャックさんほどに聖書を深く語ってくれる人はいない」と妻が常々言うので、いつか会いたいと私は思っていた。

そのジャックさんが日本に来ると聞いた。私は無理にお願いして二日間だけ熊本まで来てもらった。到着の翌朝、朝食のとき、私が一つの質問をすると、彼の答えは一、二時間に及んだ。さらに次の質問をする。答えはさらに広がってゆく。気がつくともう夕食の時間である。翌日も同じように私たちは食卓にすわったまま一日の大半をそこで過ごした。そして三日目の朝、ジャックさんは東京へ戻って行った。

マリヤがイエスの足もとにすわって、みことばに聞き入ったように、私はジャックさんの足もとで教えを受けた。

たった二日間、ともに過ごしただけだが、そのときのジャックさんとの交流は、その後の私の生き方を大きく変えた。

私が彼から受けたのは単なる知識ではなかった。命だった。

多くの苦しみや悲しみを通して彼が神から受けたもの、そして彼のうちに豊かな養分となつて蓄えられたもの、私はそれを受けたのだと思う。

今の時代、こういう学び方をする人は少ないのではないか。(続)

今日の礼拝

○第一礼拝は午前一〇時から、第二礼拝は午前一一時から、○教会学校は午前一〇時から、こひつじ館で。

○説教は、宮元隆博さん。

先週の礼拝

○司会は宮元隆博さん、奏楽は吉岡隆夫さん。

○説教は米村牧師。申命記二〇の一九から。

戦争時であつても、木を切り倒してはならないという戒めです。私たちの人生においても、安易に捨てたり、取り去つたりしてはならないものがあるのではないかと語りました。

先週の出席

第一礼拝が三九名、第二が四〇名、合計七九名(男二八、女五一)子ども五名。合わせて八四名。

長老会

以下のよう内容です。一、会計報告。毎月の必要は満たされ、差額は将来の土地購入のために貯蓄されている。

二、クリスマス集会については、プレイズは無理だが、コーヒータ

ムはやつてもよいのではないかと。来年度の元旦礼拝は日曜礼拝の翌日となるので、お休みにする。

三、礼拝は、まだしばらくは、現状のまま、二回に分けて行なう。四、若い説教者たちの成長のために今後も祈つてゆく。

関連教会牧師会

静岡県浜松市天竜で十一月五日から二日間にわたつて開催されている関連教会牧師会に米村牧師夫妻は参加しています。

牧師身辺

アメリカのアリゾナ州在住のジレット・ジョエル・しおり夫妻から献金が送られてきました。以下のような感謝の便りをしました。

しおりさん、母教会のことを覚え、尊い献金をありがとうございます。

しおりさんも、アメリカでの生活が長く、子どもさんたちをりつぱに育て上げ、今は、おふたりで、静かな、そして別の意味で、有意義な日々を送つておられることかと思ひます。

日本にやってきた長男のショーン君のことはよく覚えています。医師への道を選ばれたそうで、他者のために生きる、よい人生を歩まれることでしょう。

しおりさんやジョエルさんとの出会い、そしてお二人の、これまでの生き方はぼくたちにとつても大きな誇りです。

また長女の真紀と親しくしてくださつて感謝しています。真紀は、しおりさんのことを姉のように慕っています。しおりさんがアメリカにいてくださることは、ぼくたちにとつても心強いです。

ぼくたちは、ずいぶん年をとりました。教会も若い方たちに多くを負っています。コロナで活動ができなかった数年ですが、これからは、若い方たちが教会を引っ張つていってくださるでしょう。

長男の耕一たちも中国から東京に戻り、元気でやつているようです。

このたびは、ほんとうにありがとうございました。

米村英二